

# インテリアコーディネータの業務の実態

インテリアコーディネータの現状と課題 その1

角本亜弥\*, 奥村 美鈴\*\*, 片山 勢津子\*\*\*, 加藤 力\*\*\*\*

## Actual Conditions of Working of Interior Coordinator

Actual Conditions and Problems of Interior Coordinator Part1

KAKUMOTO Aya \*, OKUMURA Misuzu \*\*, KATAYAMA Setsuko \*\*\*, KATO Tsutomu \*\*\*\*

### 1. はじめに

昭和59年(1983)にインテリアコーディネーター(以下ICと略す)資格試験制度が発足して、四半世紀以上が経つ。この間、日本の住生活や住空間の変化は目覚ましく、インテリア産業を取り巻く状況も著しく変貌をしてきた。こうした状況の中、ICの役割やあり方や社会からの要請など、当初の想定とはかなり変化してきていると思われる。

そこで本研究では、IC業務の実状と課題を明らかにすることを試みる。まず本稿ではICを対象としたヒアリング調査について取り扱う

### 2. 調査方法

調査対象者の選定に当たり、所属形態や扱う分野によってICの業務内容が異なるため、表1に示す3分類10名を対象とした。全国規模の住宅メーカを2社としたのは、企業の方針等によってICの位置づけが異なると考えたためである。

ヒアリング項目は、業務内容を中心に、仕事量やエレメント選択の評価基準、待遇、現在の仕事に対する課題と要求などである。調査期間は平成20年9月~10月、ヒアリングは1人約1時間程度、あらかじめ業務の流れを予測して作成したワークフロー図を呈示して、実施した。

### 3. 結果と考察

#### (1) ヒアリング結果

ヒアリング概要を表2に示す。IC全員、転職を経験して現職に就いている。特徴として以下の内容が認められた。

①住宅関連企業に所属するICは、主にエレメントセレクトとそのレイアウトが中心で、特に全国規模A社ではこの業務に特化していた。

②住宅関連企業の全国規模B社は、ICをより積極的に活用しており、住戸設計の段階から入り込んで業務を展開している。

③エレメント関連企業は、自社のエレメントセレクトを中心として、その周辺業務、例えばショールームでの販売、ハウスメーカーの委託業務などが行われている。また、一部のICは商品開発にも携わることがある。

④集合住宅に関わるICの業務は、間取り変更など住戸設

計を中心とした業務である。

⑤フリーあるいは地方規模の住宅関連企業に所属するICは、全国規模の住宅関連企業に比べて、業務の幅がより広がり、営業・住戸設計・エレメントセレクト及びそのレイアウトまでトータルに業務展開している。

⑥特注家具などエレメントの設計施工及びその監理業務の存在も確認された。

⑦現在の仕事に満足しているが、ICの職能に対する認知の低さや、トータルに関われないことへの不満が聞かれた。

⑧キャリアのあるICから、能力の判断基準がないことへの不満や、新しい世代が育たないことへの不安が聞かれた。

#### (2) 業務フロー

様々な業態のICを対象としてヒアリングを行った結果、IC業務は以下の6つの業務とその流れとして整理できた。企業や所属部署による違いは、これらの業務の組み合わせが異なると捉えられる。予測と異なったのは、プランニングとして、住戸の間取り変更とエレメントレイアウトがあることで、また、図面化は別部署が担当することが多い。

##### ① 営業活動:

販売促進を含む営業業務

##### ② 住戸設計(プランニング):

間取りを含めた住戸全体に関わる設計業務

##### ③ レイアウトプランニング:

インテリアエレメントの配置ならびにインテリア空間の設計業務

##### ④ エレメントセレクト:

インテリアエレメント選定等コーディネート業務

##### ⑤ 生産・施工・監理:

製作、工事から引き渡しまでの一連の業務

##### ⑥ アフターケア:

クレーム処理、メンテナンス行為等に関わる業務

なお、これらの流れとは別に次の業務が存在する。

##### ⑦ 製品企画・開発:

商品の企画や開発に関わる業務

### 4. まとめ

調査によって、IC業務の実状が窺えた。それは6つの

表1 ヒアリング結果の概要

インテリア企業分類		ヒアリング内容
住宅関連	全国規模 A	業務内容：エレメント選択が主な業務。特注家具作成もある。完全に分業しており、図面は書かない。プレゼンボード作成。 希望と不満：仕事にはやりがいがあるが、ICの地位が不安定で不満である。 資格：IC資格がなくてもやっていける。他に福祉住環境コーディネーター。
	全国規模 B	業務内容：エレメント選択が主な業務。レイアウトに関わる配線・配管等が変更できる時期から工事終了まで長く関わる。プレゼンボード作成。特注家具作成もある。図面は書かない。 希望と不満：仕事に対する満足感はある。次の世代が育っていないのが不安。 資格：IC資格は採用基準になっている。他に二級建築士、キッチンスペシャリスト。
	地方規模	業務内容：契約後の打合せから、換気計算や外構などまで幅広く関わる。図面化は設計部署が行う。特注家具作成も多い。プランニングシートを作成し、サンプルは持参。 希望と不満：仕事にはやりがいがある。ICの職種は確立していると思う。 資格：ICのみ所有。今後、二級建築士取得希望。
	集合住宅	業務内容：エレメントの商流全般に関わる。主に、新規マンションの間取りの設計変更、ショールームのインテリアデザイン。特注家具作成もある。プレゼンボード作成。 希望と不満：仕事は満足だが、能力別の基準がないのが不満。 資格：IC資格は有効だが、実績がより重要。他に商業施設士、カラーリストなど。
エレメント関連	住設機器 (照明器具)	業務内容：ショールームでの接客が主な業務だが、ハウスメーカーからの依頼もある。施工には関わらない。プレゼンボード作成。 希望と不満：仕事にはやりがいがあるが、平面図から計画することが多いため無難な案になる。。 資格：照明士が重要。IC資格はなくてもやっていける。
	ファブリック	業務内容：ショールームでの接客業務で、トータルコーディネートをまかされるのは1/3程度。特注は別の部署が担当。 希望と不満：仕事にはやりがいがある。接客中心のため、時間の拘束が辛い時がある。 資格：ICは資格手当がある。他に二級建築士、照明コンサルタント、キッチンスペシャリスト。
	家具	業務内容：ショールームでの接客業務。特注家具作成は別部署担当。プレゼンボードを作成するが、見積書や図面は他の部署が担当。 希望と不満：仕事にはやりがいがある。商品知識が追いつかない。 資格：IC資格は顧客の信頼を得る。他にカラーコーディネーター所有。照明士をとりたい。
フリー	不動産 マンション系	業務内容：インテリア会社からの仕事が多く、マンションのエレメント選択が主な業務。作り付けのエレメントが多い。プレゼンシート作成。 希望と不満：仕事にはやりがいがあるが、ICのソフト料はなかなか理解してもらえない。 資格：IC資格で仕事をしている。他に色彩検定、福祉住環境コーディネーター。
	設計事務所系	業務内容：工務店からの紹介が多く、プランニングからエレメント選択、施工監理までトータルに行く。特注家具作成もある。 希望と不満：仕事にはやりがいがあるが、工務店や顧客のIC業務に対する認識が低いのが不満。 資格：ICより建築士の資格が重要。他に二級建築士、カラーコーディネーター。
	デザイン事務所系	業務内容：内容は多岐にわたる。ショールームのディスプレイ、住宅の新築や改築の設計変更からインテリアコーディネート、イベントのパネル作成など。 希望と不満：仕事は楽しくやりがいがあるが、ICのソフト料の決定が難しい。 資格：IC資格はフリーに必要。他に福祉住環境コーディネーター、カラーコーディネーター

業務（①営業活動、②住戸設計、③レイアウトプランニング、④エレメントセレクト、⑤生産・施工・監理、⑥アフターケア）とその流れに整理でき、企業の内容や規模によってその組み合わせが異なると捉えられた。また、この他に製品企画・開発業務も存在する。ICは仕事にやりがいを持っているもののIC資格や待遇については不満や不安を抱えていた。

今後、さらに定量的に調査を進めて現状把握を行い、今後のあり方について考察を進める必要があると思われる

【謝辞】調査にご協力いただきましたICの皆様にご心より感謝申し上げます。

(\*パナソニック電工ホームエンジニアリング㈱, \*\*ドワンゴ㈱, \*\*\*京都女子大学准教授, \*\*\*\*宝塚造形芸術大学大学院教授)